

令和7年度第1回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 令和7年8月8日（金） 14時00分～15時40分

2 場 所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

磯野敏和 委員・加瀬紗和 委員・二階堂友和 委員・埴田直美 委員
松尾修一 委員・本杉みゆき 委員・安田昌子 委員・吉岡文 委員
吉野知義 委員

(2) 事務局

佐久間中央図書館長・鈴木中央図書館管理課長・堀中央図書館情報資料課長
藤井みやこ図書館長・稲葉花見川兼稲毛図書館長・及川若葉図書館長
市川緑図書館長・東端美浜図書館長・萩屋中央図書館情報資料課長補佐

(3) 傍聴人

8人

4 議 事

(1) 令和6年度千葉市図書館の評価(案)について（評価実施：R7、評価対象：R6）

(2) 令和7年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

(3) 千葉市子ども読書活動推進計画（第4次）これまでの取組み
及び第5次計画の策定について

(4) その他

5 概 要

(1) 令和6年度千葉市図書館の評価(案)について（評価実施：R7、評価対象：R6）

(ア) 事務局より報告

(イ) 外部評価について

・外部評価部会長より報告

・外部評価案の検討（意見調整）

(2) 令和7年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

(ア) 事務局より報告

(イ) 質疑応答・協議

(3) 千葉市子ども読書活動推進計画（第4次）これまでの取組み
及び第5次計画の策定について

(ア) 事務局より報告

(イ) 質疑応答

(4) その他

・土気市民センター・土気公民館の建替えについて

(ア) 事務局より報告

(イ) 質疑応答

・千城台公民館・若葉図書館再整備について

(ア) 事務局より報告

(イ) 質疑応答

6 会議経過

<開 会>

- ・ 委員及び事務局職員の紹介
- ・ 配布資料の確認
- ・ 中央図書館長あいさつ
- ・ 事務局より出席確認及び会議の成立について報告
- ・ 委員長よりあいさつ

<議事>

(1) 令和6年度千葉市図書館の評価(案)について（評価実施：R7、評価対象：R6）

【事務局から説明】

（鈴木中央図書館管理課長）

資料1に基づき、内部評価に関する以下の事項を説明

- ・ 「千葉市図書館の評価」の経緯
- ・ 令和6年度の千葉市図書館評価（案）の構成
- ・ 内部評価の結果

（図書館サービスの基本的な取組事項）

内部評価 B

（令和6年度主要事業）

内部評価 A 5項目、B 2項目、C 1項目

（取組項目）

- ・ 基本目標1 達成1項目、順調1項目、遅れ1項目
- ・ 基本目標2 順調2項目

（吉岡委員）

外部評価に関する以下の事項を説明

（図書館サービスの基本的な取組事項）

外部評価 B

令和5年度と比較し、来館者数や電子書籍関連の数値が増加している点は、評価できる。その一方、図書資料の貸出冊数や市民一人当たりの資料貸出点数といった貸出に関する数値が減少しているなど、サービス向上に向け、取り組むべき課題もあることから、外部評価をBとした。

市民全体における図書館を利用した市民の割合が減少していることから、新たな利用者層を獲得できるよう、取り組んでいただきたい。

また、電子書籍の利用においては、児童生徒の閲覧回数が増加傾向にあるため、年齢層や関心に応じたコンテンツの提供に一層注力し、利用促進に努めていただきたい。

（令和6年度主要事業一覧）

外部評価 A 5項目、B 2項目、C 1項目

→地域情報のデジタル化について、地域情報のデジタル化が着実に進んでいる。今後も継続して推進していただきたい。また、オープンアクセス可能な史料の増加は、歴史研究や地域研

究、生涯学習の振興にとって非常に望ましく、その充実に努めていただきたい。

→レファレンス機能の充実について、オンラインデータベースの活用により、レファレンスサービスでも即時かつ適切な回答が可能になってきていることは評価できる。データベースごとの特性を踏まえ、担当職員には一層の習熟に取り組んでいただきたい。

→電子書籍サービスの提供（学校向けコンテンツの充実）について、利用促進のための方策が必要となると考えられる。特に、小中学生の電子書籍サービス利用開始は意義深く、利用拡大に向けてさらなる周知を図るとともに、ニーズに応じた魅力的なコンテンツの充実に取り組んでいただきたい。

【質疑応答】

（本杉委員）

電子書籍サービスについて、令和5年度は夏休み前に「すぐーる」を活用して啓発チラシを一斉配信していたが、令和6年度は秋休み前に実施しており、秋休みが短期間であることを踏まえると、なぜ夏休み前に実施しなかったのか伺いたい。

（萩屋中央図書館情報資料課長補佐）

「すぐーる」による啓発チラシの配信について、事務処理の遅れにより令和6年度は秋休み前の実施となったが、今後はできるだけ目に留まりやすい夏休み前に配信できるよう進めていく。

（本杉委員）

図書館資料整備費について、予算に対して多少残すようにとのことで、予算額と決算額に約1,500万円の差があるが、予算全額使えないことに対して疑問がある。

（佐久間中央図書館長）

予算について、歳入が予定どおり入ってこない可能性もあるため、一定額は留保され、執行していくこととなっている。

年度末に歳入の見通しが立った場合には留保解除を求めることは可能であるが、緊急性のあるものや必須の経費以外については、制度上認められにくい状況である。

（本杉委員）

社会教育施設保全計画について、ホームページでの公開はいつ頃になるのか伺いたい。

（佐久間中央図書館長）

正式には教育委員会会議に諮って、議決を得た段階で計画策定になり、併せて、パブリックコメントでいただいたご意見に対しての回答を添えて公表となるので、次の協議会前には公表される見込みである。

（本杉委員）

寄贈本については、ベストセラー本や子ども向けの本など、内容の内訳を把握したい。次回は、どのような本が寄贈されているのか分かるよう、内容を示していただけるとありがたい。

(佐久間中央図書館長)

ベストセラー本や子ども向けの本などの比率については、現時点では統計として示すことは難しいが、一般書・児童書の内訳については千葉市の図書館にも掲載されているため、次回以降、内容を示す方向で検討していく。

(本杉委員)

司書資格に関して、養成する計画があるようであればお伺いしたい。今後の取り組みとして検討中であれば、ぜひ計画を作成していただきたい。また、図書館に限らず、市としての方針についても併せてお伺いしたい。

(佐久間中央図書館長)

千葉市では、専門職の採用については現状行っていない。一般事務職として採用された職員の中から、司書資格を有する職員を図書館に配置している。図書館としては、専門職としての採用ができることが望ましいと考えているものの、千葉市全体としては事務職として採用という形になっているため、その中で一人でも司書有資格者を増やせるような取り組みを行っていきたいと考えている。

(安田委員)

図書館ホームページへのアクセス数が急激に増加したことについて、「特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスが考えられる」としているが、サイバー攻撃を受けたということか。

(鈴木中央図書館管理課長)

特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスが確認されているが、サイバー攻撃を受けているというわけではなく、生成AIによるWeb検索の影響によるものと考えている。

(安田委員)

電子書籍について、閲覧回数が大幅に伸びている理由をお伺いしたい。

(堀中央図書館情報資料課長)

令和5年度末より、学校専用IDを市内の全小学校に提供したため、閲覧回数が大幅に増えたと考えている。

(本杉委員)

移動図書館について、学校に立ち寄り、子どもたちが実際に見ることができるよう、もう少し積極的にPRに取り組んでいただきたい。移動図書館の存在が広く知られるようになることを期待し

ている。

また、学校図書館との連携については、学校ごとに差が生じることのないよう、円滑な連携を図っていただきたい。

(佐久間中央図書館長)

移動図書館については、イベント等の日程が合えば、積極的に出向けるようにしていきたいと考えている。

また、学校図書館との連携については、コロナの影響により停滞していたことは事実であり、今後は改めて連携の機会を掘り起こしていく必要があると認識している。

(2) 令和7年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

【事務局からの説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料2に基づき、以下の事項を説明

- ・ 図書館サービスの基本的な取組事項に関する評価指標

- ・ 主な取組項目

(未来につなぐ知の収集保存、利活用促進)

- ・ デジタル資料の提供やインタビュー資料による千葉市民の知の記録と発信及びレファレンスサービスへの活用

- ・ 地域情報をデジタルアーカイブ化し、インターネット上で公開

- ・ 地域で活動している郷土史研究家や教員OBなどへ地域に関する情報収集による継続した市民共同体制構築の推進

(「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)の構築(多様な主体による知の創出・活用))

- ・ レファレンスサービスの充実や、出会いのある図書館利用の促進、地域の交流の場とするための講座や企画展示等の実施

(未来を担う子どもたちの読書環境の充実)

- ・ 読書活動の推進として、「千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)」の策定

- ・ 年長児や小学生への読書手帳の配布や、新就学児への図書館利用申込書の配布

- ・ 学校図書館と連携した読書活動の推進や、市内小・中・特別支学校に向けた学校レファレンスカードの利活用の推進

(誰もが利用しやすいサービス環境の実現)

- ・ オンラインデータベースの提供によるレファレンス機能の充実

- ・ 電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実

(新たな「知」の拠点に向けた運営基盤の再構築)

- ・ 社会教育施設保全計画について、計画(案)のパブリックコメント手続を実施し、市民等から意見を伺った上で、計画を策定

- ・ 千城台公民館・若葉図書館複合施設再整備基本計画に基づき、令和6年度に引き続き、設計業務を実施し、施設整備を進める

【質疑応答】

(磯野委員)

図書館ホームページのアクセス件数に関する令和7年度の達成目標について、「対前年度比増」とした場合、令和7年度に特定のIPアドレスが無い場合は目標未達成となる可能性が高い。特

定IPアドレスからのアクセス件数を除外することが難しいのであれば、「対前年度比増」ではなく「令和5年度より増」とした方が良いのではないかと。

(吉野委員長)

例えば、蔵書検索の検索数を統計として取るのも良いのではないかと考えているが、こちらについて、検討していただけるということで良いか。

(佐久間中央図書館長)

アクセス数等については、どのページで統計を取るかという点もあるため、現時点で明確な回答をするのは難しい。アクセスの多いIPアドレスが一つだけなのか、他にもあるのかについては、現在一件ずつ手探りで確認している状況であり、どこからのアクセスが多いのかを即座に把握することは困難である。しかし、ご指摘いただいた内容は十分に理解しており、現時点では目標の表現はこのままとするが、今年度の結果において内訳を示せるよう努めていく。

また、検索画面のアクセス数について統計が取れるかどうかも含め、確認を進めていく。なお、本項目については条件付きという形で、現行の方針のまま進めさせていただきたい。

(二階堂委員)

現状維持するだけでも大変な中で、達成目標を「対前年度比増」とする項目が多数みられることは良いが、例えば利用者アンケートの結果を踏まえて設定した項目等、取組の中で特に力を入れたいものがある場合は伺いたい。

(佐久間中央図書館長)

コロナ禍による一斉休館などの影響で、図書館に足を運ばない生活が一時的に定着したこともあり、まずは図書館に足を運んでいただくことを目標にしたいと考えている。

(吉野委員長)

本件について、様々なご意見を頂いたが、事務局からの案を承認してよいか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

本案を承認する。

(3) 千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)これまでの取組み

【事務局からの説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料3、4に基づき、以下の事項を説明

- ・ 第4次計画の令和6年度末までの取組み状況
- ・ 第5次計画の策定について

【質疑応答】

（埴田委員）

「1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合」や、「1週間に1時間以上読書をした児童生徒の割合」など、様々なデータが示されているが、データの根拠（出典）をお伺いしたい。

（佐久間中央図書館長）

いずれも、学校教育部が実施している調査を基にしており、「1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合」については、千葉市児童生徒の読書量調査を、「1週間に1時間以上読書をした児童生徒の割合」については、千葉市学力状況調査の結果を活用している。

（埴田委員）

調査方法等により、1冊を全て読んだ場合のみを読書と考える児童生徒もいれば、途中で読むのをやめた本も1冊と捉える場合もある。そのため、不読率については、実際には示されている数値よりも低い可能性がある現場では受け止めている。様々なデータを基にされているとのことなので、今後はそのような点も踏まえ、第5次計画の策定につなげていただきたい。

（佐久間中央図書館長）

読書量調査については、実施する学校が毎年異なるため、学校によって差が生じる可能性がある。学校教育部において市全体での調査も検討されているとのこと、その点も踏まえ、対応を考えていきたい。また、読書習慣に関しては学力状況調査の結果を使用しているが、学校で実施している調査には「平均読書冊数」という別の指標があり、1週間に1時間以上読書をしたかという設問では回答が曖昧になる恐れもあることから、冊数による読書量の方が確実であるとの議論もある。こうした点を踏まえ、どのような調査を活用するのも含め、第5次計画の策定の際に検討させていただきたいと考えている。

（本杉委員）

公民館図書室については、指定管理者である教育振興財団がさまざまな改善提案を行っていることと認識しており、第5次計画にはその内容を盛り込んでいただきたい。計画の所管として教育振興財団は明記されないのかお伺いしたい。

また、未達成の項目が多く見受けられることから、子どもたちが以前ほど本を読まなくなっているのではないかと感じている。全てをコロナの影響とするのではなく、読書量減少の要因について第5次計画に向けて調査を進めていただきたい。すでに把握している要因があれば、お伺いしたい。

（佐久間中央図書館長）

公民館については、指定管理者ではなく、管理の委託元である生涯学習振興課を所管として掲載している。

不読率は全国的に見ても千葉市は低い水準にあるが、読書量は年齢とともに減少する傾向がある。千葉市では「ブックスタート事業」を実施し、0歳児から読書習慣に親しむための事業を行っており、小学生までは一定の効果がみられると認識している。しかし、中学生以降は部活動や受験勉強等で多忙となるためか、読書量が減少する傾向にある。そのため、読みたいときに読める環境の整備が重要であると考えている。

また、電子書籍サービスについては、昨年度末時点で、小学校では約9割、中学校では約2割がギガタブを通じて活用している。小学生向けの書籍は充実してきている一方で、中学生向けについては、まだ十分でない状況である。そのため、可能な限り環境整備に努めるとともに、認知度向上に向けた周知も併せて進めていく。

(加瀬委員)

本を読んでもらうための取り組みとして、具体的なものがあればお伺いしたい。

(佐久間中央図書館長)

千葉市では、ブックスタート事業を行っており、4か月健診時に絵本をお渡ししている。併せて、家族で本に親しむ時間をつくっていただけるよう、「我が家のファミリーブックタイム」リーフレットをお渡ししている。小学校入学時には、新入学時用の「我が家のファミリーブックタイム」リーフレットをお渡ししている。

また、年齢に応じたおすすめ本のリストを作成している。

(加瀬委員)

おすすめ本のリストについては、発行されているのかお伺いしたい。

(佐久間中央図書館長)

赤ちゃん用および幼児用については、現物を配架するとともに、図書館ホームページ上でも公開している。小学生から中高生用については、配架はしておらず、図書館ホームページ上で公開をしている。

(加瀬委員)

情報発信にあたっては、保護者向けだけでなく、子ども自身に向けた工夫が必要である。あらすじの記載や予告編・書籍の帯のような形式で、子どもが興味を持てる内容とすることが望ましい。

また、中学生に対しては、将来を意識した内容など、年代に応じた本の紹介を心がけ、「読んでみたい」と思わせるような取り組みを実施することで、読書への関心を高めることができると思う。

保護者向けの情報発信だけでなく、視点を変えて子どもたち自身に向けた情報発信を検討することが、読書量の増加や利用促進につながると考えている。

(佐久間中央図書館長)

現在は、SNSを活用した情報発信に加えて、ギガタブでも直接アプローチができないか模索していたところであるが、学校が発信する情報が基本となっているため、現段階では図書館の情報をギガタブで配信することは難しい。しかし、電子書籍サービスのページを開いていただければ、図書館からのお知らせが表示されるため、そこを活用できないかと丁度議論していたところである。

(加瀬委員)

学校を通して、紙での配付をすることは難しいか。

(佐久間中央図書館長)

現在は、学校側の事務負担の兼ね合いもあるため難しい。

(埴田委員)

夏休み前は、学校への配布依頼が多く寄せられ、それを精査しながら、必要な情報だけを発信している。図書館では既に「すぐる」を活用して情報発信を行っているが、紙での配付が難しい現状を踏まえ、今後も引き続き有効に活用し、親子の対話を促し、来館のきっかけづくりに取り組んでいただきたい。

(4) その他

(ア) 土気市民センター・土気公民館の建替えについて

【事務局からの説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料5に基づき、以下の事項を説明

- ・土気市民センター・土気公民館等の新たな複合施設について
- ・緑図書館土気図書室の休止と代替利用
- ・今後のスケジュールについて
- ・住民説明会について

【質疑応答】

(本杉委員)

開館時間は他の公民館と同様のスケジュールになるのか。また、開館時間が増えることは便利だが、緑図書館の人員が減ってしまうようなことがないか懸念している。

併せて、蔵書冊数が決まっていたら伺いたい。

(佐久間中央図書館長)

現在決まっている内容としては、緑図書館土気図書室は旧土気町役場の建物の中に土気市民センターと一緒にあり、その建物と公民館を立て替えて新しい複合施設を作り、土気図書室を公

民館図書室として運営していく予定であるというところまでで、今後、住民説明会を開催し、ご意見を聞きながら進めていく。

(本杉委員)

公民館図書室として運営することは決定しているのか。

(佐久間中央図書館長)

その方向で、検討させていただいている。

(本杉委員)

社会教育施設保全計画の中で、みやこ図書館白旗分館や若葉図書館西都賀分館は複合化を優先的に行うとされていた。意見として、複合化後も図書館として残るような形にさせていただきたいと思う。

(イ) 千城台公民館・若葉図書館再整備について

【事務局からの説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

プロジェクトにより、以下の事項を説明

- ・ 若葉図書館 1階平面図について
- ・ 千城台公民館 2階平面図について
- ・ 建物の外観・内観イメージ（パース）について

【質疑応答】

(本杉委員)

階段の途中に会話できるようなスペースがあるが、それとは別に、図書館の利用者が借りられるような部屋の設置は考えているのか。

(佐久間中央図書館長)

基本計画に基づいて進めており、図書館専用の部屋は設けないこととなっているため、あいにく設置の予定はない。

また、総工費は約20億円を予定しているが、建設コストが上昇しており、現在予定している内容から変更となる可能性がある。

以上